

「道德教育指導論」における「感動、畏敬の念」の指導法に関する研究 — 田淵行男を教材化した模範授業を通して —

Developing the Facilitation of Impression and Awe in Moral Education Guidance Theory

— Through a Model Lesson Using Yukio Tabuchi as a Teaching Material —

百瀬光一¹⁾・石川勝彦²⁾・下崎 聖

Koichi Momose¹⁾, Katsuhiko Ishikawa²⁾ and Sei Shimosaki

要 約

本研究は、「感動、畏敬の念」の指導法について追究する。具体的には、A大学の教職科目「道德教育指導論」における「感動、畏敬の念」の効果的な指導法について追究することにした。このことを通して、道德科の授業において「感動、畏敬の念」も指導できる教員の育成を図りたいと考えた。特に本稿では、「感動、畏敬の念」の指導法として導入した「模範授業」の指導計画について報告する。

キーワード：道德教育指導論、感動、畏敬の念、田淵行男、模範授業

I. はじめに

A大学では、教職科目として「道德教育指導論」（3年生対象：第一筆者担当）が設置されている。この授業は、中学校免許状の取得を目指す学生の必修科目として位置付けられている。ここでは、「教職課程コアカリキュラム」に基づき、道德の理論及び指導法について扱う。「道德の時間」が「特別の教科 道德」（以下、道德科）となって以降、4年次の教育実習で行う道德科の授業時間数も増えつつある。これに伴って教育実習の振り返りでは、中学校道德の22の内容項目の中で、「感動、畏敬の念」の授業設計が難しく、授業展開に苦労したとする学生の声が聞かれるようになってきた。また、「道德教育指導論」の授業の中で学習指導案の作成と模擬授業を課しているが、「感動、畏敬の念」を選択し、実践する学生は極めて少ない。

A大学の教職課程を履修する学生に限らず、

この点については、多くの指摘がなされている。例えば小池（2016）は、道德教育の入門書や大学での道德教育の授業用のテキストを引用しながら、「畏敬の念」の扱いにくさについて触れている。藤田・俵谷は、「道德授業において、『感動、畏敬の念』あるいは、それと同義に使われてきた『敬けん』は、教えにくい、指導しにくいという声は、学校現場ではかなり以前からあり、この問題は、現在に至るまで解決しているとは言い難い」（藤田・俵屋、2019, p.2）としている。

そこで本研究では、「感動、畏敬の念」の指導法について追究する。具体的には、A大学の教職科目「道德教育指導論」における「感動、畏敬の念」の効果的な指導法について追究することにした。このことを通して、道德科の授業において「感動、畏敬の念」も指導できる教員の育成を図りたいと考えた。特に本稿では、「感動、畏敬の念」の指導法として導入した「模範授業」の指導計画につ

¹⁾ 山梨学院大学 ²⁾ 大阪大学

いて報告することにする。

本研究は、山梨学院大学倫理審査委員会の承認を得て進めているものである（受付番号：22-012，2022年9月21日承認）。

II. 「感動、畏敬の念」に関する先行研究

1. 畏敬の念

「畏敬の念」に関しては、哲学などの知見を基に論じられているものがある。その中で、注目に値するものを紹介する。藤井・中村（2014，p.173）は、道德教育における内容項目「畏敬の念」を取り扱う授業において、どのような教育的課題が生じるかを西洋における概念史研究の成果に即して検討し、西洋哲学における概念理解から知見を得ることなしに道德教育の実践が展開されることの課題や危うさを指摘することで、授業者に求められる哲学的・倫理的素養の重要性と新たな道德教育実践の可能性を提起している。光田（2016，2021，p.1）は、ボルノー（Otto Friedrich Bollnow）の概念整理を手がかりに、「畏敬」はどのような感情であり、どのようにして培うのかについて考察している。伊藤（2018）は、カント（Immanuel Kant）の論考を手がかりに、学習指導要領における「畏敬の念」をどのように理解すべきかについて考察している。

さらに、「畏敬の念」に関して、「宗教的情操」との関連から論じられているものがある。同様に、注目に値するものを紹介する。三宅（2016，p.97）は、「人間の力を超えたものに対する畏敬の念」という言葉は、1977年から学習指導要領に盛り込まれているが、遡るならば戦前から育成されてきた「宗教的情操」という独特の情緒を引き継ぐものであるとしている。また、宗教的情操とは、「戦前の日本の『修身』から戦後の『道徳』への歴史の中で時に言葉と文脈を変えながらも脈々として継承されてきた日本的『超越性』の概念である」（三宅，2016，p.97）としている。永井は、『畏敬の念』に発する『宗教的情操』は、特定の宗教に関わる信仰とは意味合いが異なるので、国公立学校においても『宗教の中立性』が担保できる。

その意味で、『畏敬の念』に関係する『宗教的情操』という要素をより積極的に生かして、子どもたちに道德的項目を学ぶ機会を与えることが、本来の意味で道德性を身につけることにつながるのではないかと考える」（永井，2019，p.175）としている。大宮は、「（前略）宗教的情操教育も特定宗教を前提としなければ意味のないものになる。したがって、公立学校で特定の宗教から宗教的情操だけを切り離して教えることも難しいと言わざるを得ない」（大宮，2014）としている。

「畏敬の念」を扱う授業者が哲学や倫理学の素養を必要とすることの重要性については、首肯できる点がある。また、「畏敬の念」と「宗教的情操」との関連等に関しては、今後も議論を要するところである。しかしながら、これらについては、稿を改め、別の機会で論じることとしたい。

今回は、教職課程を履修する学生を対象とすることを踏まえ、「畏敬の念」の捉えについては、学習指導要領及び学習指導要領の解説編の記述を基とし、「感動、畏敬の念」の指導法については、先行研究における実践での知見を参考としながら検討することにした。

2. 「感動、畏敬の念」の指導

「感動、畏敬の念」の指導に関する先行研究で、山田・杉本・山田他の論考と富岡の論考が注目に値する。

山田・杉本・山田他（2020）は、道徳の時間の教科化に伴う改訂で、改訂前は同項目だった「自然愛護」と「感動、畏敬の念」が区分されたことに着目し、「感動、畏敬の念」と「自然愛護」及び「よりよく生きる喜び」との違いを明確化しながら、「人間の力を超えたもの」をどのように授業で扱うかについて追究した。具体的には、両項目が区別されたことで、生徒に感動や畏敬の念を感じさせる「美しいものや気高いもの」の範囲が従来の自然から「人の生き方」まで広げられたことを指摘し、人間の生き方そのものを通して「人間の力を超えたもの」を感じ取らせるための授業実践を実施した。

また、実践に際しては、自然や自然現象の尊厳さを超えて人間の側に「畏敬の念」を感じ取らせることから、終始「生きることの有限性や神秘さ」を発見することにとどまり、特定の宗教や特定の生き方の賞賛にはつながらないようにしたとしている(山田・杉本・山田他, 2020, p.64, p.69)。

富岡(2020)は、考え議論する「畏敬の念」の指導のあり方について追究し、教科書の使用義務によるその教材研究の重要性や、体験を有効に生かすこと、主人公の気持ちを問うだけでなく、理由や根拠を問うて明確な言語化を図ることの重要性について指摘している。また、富岡も「学校教育で求められている畏敬の念の対象としては、生命、自然、人間の崇高な生き方や心の清らかさなどが考えられ、これらに関わる畏敬の念を培っていくことになる」(富岡, 2020, pp.76-77)としている。さらに富岡は、「(前略)『畏敬の念』が内容項目に含まれている意義は、教育の根本に関わって欠かすことができない内容であるとともに、人としてよりよく生き豊かで味わい深い人生を過ごしていくのに不可欠な内容だからこそ位置付けられているのであろうと考える」(富岡, 2020, p.77)としている。

以上から、本研究においても、内容項目「感動、畏敬の念」を扱う上で特定の宗教や特定の生き方の賞賛につながらないように留意しつつ、道徳科で重要視されている「考え、議論する道徳」にするための「問い」を検討しながら、富岡が指摘した「畏敬の念」の内容項目に含まれることの意義を踏まえた指導法について検討することにした。

Ⅲ. 田淵行男を教材化した模範授業の設定

1. 学習指導要領等における「感動、畏敬の念」

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年度告示)』では、「感動、畏敬の念」について、「美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること」(文部科学省, 2018a, p.156)としている。

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』では、「感動」とは、「物事に深く

感じて心が動くこと」(文部科学省, 2018b, p.66), 「畏敬」とは、「『畏れる』という意味での畏怖という面と、『敬う』という意味での尊敬、尊重という面が含まれている」(文部科学省, 2018b, p.66)としている。

また、指導の要点では、「(前略)自然の織りなす美しい風景や優れた芸術作品等の美しいものとの出会いを振り返り、そこでの感動や畏怖の念、不思議に思ったことなどの体験を生かして、人間と自然、あるいは美しいものとの関わりを多面的・多角的に捉えさせることが大切である」(文部科学省, 2018b, p.67)とし、「さらに、心の奥深さや清らかさを描いた文学作品等の気高いものとの出会いを振り返り、有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止める心を育てることが求められる」(文部科学省, 2018b, p.67)としている。

先の山田・杉本・山田他や富岡の論考も踏まえながら、自然(生命)や人の生き方から感動する心をもたせ、人間の力を超えたものへの畏敬の念を深める指導について検討することとした。

2. 田淵行男を教材化することの意義

本研究では、高山蝶の研究者であり、山岳写真家でも有名な「田淵行男」を教材化することにした。高山蝶の研究では、例えば「タカネヒカゲ」の幼虫が、峻烈な高山の砂礫地帯で2度越冬して成虫になることを明らかにした(長野県立歴史館, 2018, p.13; 田淵行男, 1952, p.64)。また、高山蝶の幼虫、蛹、成虫の「細密画」¹も表わした。特にこの細密画からは、田淵の自然観や生き方が伝わってくる。

さらに、山岳写真家として撮影した、山の崇高さを表現した山岳写真からもこのことを窺うことができる(田淵行男, 1995)。こうした田淵の自然観及び生き方を通して、自然と人の生き方の2つの対象を同時に扱うことが可能となる。このことから、限られた授業回数の中で田淵を教材化して指導を行うことはきわめて意義があるといえる。なお、自然と人の生き方の両方を扱うことから、今回は検定教科書を用いず、開発教材を用いることとした。

3. 模範授業による指導法とその指導計画

(1). 模範授業の導入

それでは、田淵を教材化し、どのような方法で「道徳教育指導論」の履修者に「感動、畏敬の念」の授業設計及び実践の方法を経験させればよいだろうか。

この問いに対して、大学の授業における道徳授業の指導法で参考となる先行研究を概観することにした。例えば、庄子（2012）の授業ビデオの視聴を通した指導、清水（2020）の授業ビデオの継続的視聴と模擬指導案検討会による指導などがある。これらは、共通して「授業ビデオの視聴」を導入している。また、内海崎（2014）の学習指導案作成と模擬授業による指導、上原（2017）の事前に発問・発話と児童の反応を想定した問答案の作成とそれを活用した模擬授業による指導、須藤・安永（2018）のLTD（Learning Through Discussion）の活用と模擬授業等による指導、笹尾（2020）の「学生による模擬授業」の指導、村上（2020）の模擬授業と協議の積み重ねによる指導、矢田（2021）のゼミによる模擬授業の指導などがある。これらは、共通して「模擬授業」を導入している。

さらに、松井・元根（2009）は、模擬授業を「模擬授業実施」「模擬授業観察」「生徒役として模擬授業参加」の3つの形態に分類し、これらの効果を検証した結果、道徳に関する概念理解は生徒役として模擬授業に参加すること、実践意欲の形成では観察役として模擬授業に参加することがそれぞれ有効であることを報告している。

本授業でも道徳科の授業のイメージを持たせるため、授業ビデオ視聴を数回程度導入する。また先述の通り、学習指導案作りと模擬授業も行う予

定である。ただし、模擬授業では、内容項目「感動、畏敬の念」を扱う学生はごくわずかであることが推察される。このことから、「感動、畏敬の念」の授業設計に関する指導は、模擬授業とは別に設定することとした。今回は、受講する学生数が100名を超えることと時間的な制限等を踏まえ、最もシンプルな方法として「模範授業」²を導入することにした。

具体的に、授業者は第一筆者が担当し、受講生は生徒役をさせることにした。大前は、「教員養成課程の学生に教育方法と授業技術を習得させるには、大学教師が模範授業を行い、学生に生徒役として授業を体験させることが有効である」（大前，2015）としている。この大前の論考を踏まえながら、実施することとした。

(2). 模範授業の構成

模範授業の構成を以下の表1の通りとし、拡大投影機の活用と読み聞かせを重要な手段として考えた。時間は20分とした。なお、今回の田淵を教材化した模範授業では、山田・杉本・山田他が行った人の生き方を通して「人間の力を超えたもの」を感得させるような実践は、筆者らの力量では難しいと判断した。このことから、田淵の生き方そのものから「人間の力を超えたもの」を感得させることまでは踏み込まないよう留意することとした。特定の宗教や特定の生き方の賞賛につながることを回避するためである。

①は、長野県安曇野市のホームページにある「田淵行男 | 安曇野ゆかりの先人たち」を提示することにした。ここには、田淵の顔写真や経歴、略歴譜等が分かりやすく示されている^{3,4}。

②は、公益財団法人安曇野文化財団である田淵

表1 模範授業の構成

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① 拡大投影機を用いて田淵行男の経歴及び業績を紹介する。② 拡大投影機を用いて高山蝶の「細描画」と「山岳写真」を紹介する。③ 田淵行男著『黄色いテント』の読み聞かせをする。④ 中心発問「あなたと田淵行男との相違点は何ですか、あなたと田淵行男との共通点は何ですか」について考える。⑤ グループで考え議論し、全体でシェアする。⑥ 本授業の感想を記述する。 |
|--|

行男記念館のホームページにある「収蔵品データベース」より、高山蝶の幼虫、蛹、成虫の「細描画」を、同ホームページの「展示・イベント等」からは、「山岳写真」をそれぞれ提示することにした^{5, 6}。

③は、田淵行男著『黄色いテント』の中から、「高山蝶の目」と「原始への回帰」の2か所の読み聞かせを行うことにした⁷。「高山蝶の目」では、厳しい環境の下で適応し、すべてぎりぎりの限界まで現場に適応した生活をしている高山蝶の生き様が記されている（田淵, 2018, pp.91-92）。「原始への回帰」では、田淵が山中で感じた理屈を超越した不安感である、自然への漠然とした恐れ（物の怪）について記されている（田淵, 2018, pp.235-238）。この2つの読み聞かせを通して、田淵が感じ取った自然に対する感動、畏敬の念を感じ取らせたいと考えた。

④の中心発問は、「あなたと田淵行男との相違点は何ですか、あなたと田淵行男との共通点は何ですか」とした。富岡は、「（前略）登場人物に自己を没入し気持ちを推し量るだけでは崇高な心や畏敬の念を育むことは不十分で、対比的に捉えていく必要があると考える。資料中の人物の生き方に対し、知らず知らずの内に自分たちのそれと対比的に捉え感じ取った驚きや感動を整理し、理由や根拠と共に言葉や文字で表現していくことで崇高な心や畏敬の念を育むことが可能になってくるのではないだろうか」（富岡, 2020, pp.79-80）としている。

さらに、富岡は、「（前略）偉人を扱った教材では、あまりにも常人には為しえない行為なので、崇高さに意識が向かわず『とても自分にはできない』と捉える可能性がある。このことを考慮すると、『人間にはこのような崇高な部分があり、それはあなたの中にもある』ことを教師が必要に応じ語ることも大切なことである」（富岡, 2020, p.81）としている。

これらを参考にしながら、④の中心発問では、田淵と自分とを比較させることにした。また、単に「田淵行男はすごい人」で終わらせるのではなく、

田淵が感じ取れた自然に対する感動、畏敬の念を感じ取れた受講者自身の心にも目を向けさせたいと考えた。

⑤は、グループで考え議論し、さらに全体でシェアし、⑥で本授業のまとめを行うこととした。

（3）. 学習指導案

模範授業用の学習指導案も作成することにした。主題名を「田淵行男の自然観」（D-(21)：「感動、畏敬の念」）とし、本時の主眼は「田淵行男の業績である「蝶の細密画」と「山岳写真」を鑑賞したり、著書『黄色いテント』の読み聞かせを聞いたりすることを通して、田淵行男が抱いた自然に対する感動、畏敬の念を感得すると共に、自分自身の中にも田淵行男と共通する感動、畏敬の念が抱けることに気づき、そのことを大切にしていこうとする心情を高めることができる」である。なお、展開の詳細は、次頁の表2に示した通りである。

IV. おわりに

本研究は、内容項目「感動、畏敬の念」の指導法について追究した。具体的には、A大学の教職科目「道德教育指導論」における「感動、畏敬の念」の効果的な指導法について追究した。本研究の成果として、受講学生が生徒役になって参加する、模範授業の授業計画を作成した。次は、授業実践を通して導入した模範授業の有用性について検証することである。今後の課題としたい。

謝辞

本研究を進めるにあたり、田淵行男記念館館長の中田信好様、安曇野市文書館の青木弥保様には、多大なるご協力を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。

「道徳教育指導論」における「感動、畏敬の念」の指導法に関する研究
 ー田淵行男を教材化した模範授業を通してー

表2 展開

| 展 開 | | 予想される言動等 | 留 意 点 | 備考 |
|-----------|---------------------------|--|---|------------|
| はじめ 3分 | 1 田淵行男について紹介する. | <ul style="list-style-type: none"> 誰, この人? 見たことないぞ. ナチュラリストなんだ. 先生の近くにいた人なんだ. | <ul style="list-style-type: none"> 田淵行男の顔写真を提示しながら, 簡単に人物紹介をする. 授業者の郷土にいた人物であることを伝え, 興味を持たせる. | |
| なか 12分 | 2 田淵の業績である蝶の細密画を鑑賞する. | <ul style="list-style-type: none"> 色がきれいだな. 写真とは違うぞ. 上手いな. タッチが細かいな. | <ul style="list-style-type: none"> 全て田淵が採集した蝶を観察して描いたという事実を伝える. デフォルメして描くことで, 蝶に対する敬意を表していることも伝える. | • 蝶の細密画 |
| | 3 田淵の業績である山岳写真を鑑賞する. | <ul style="list-style-type: none"> 標高の高い山ばかりだ. 稜線が好きなんだ. 白黒だけど迫力がある. 空気が薄そうだ. | <ul style="list-style-type: none"> 何日もかかりながらシャッターチャンスを狙って撮影したことを伝える. | • 山岳写真 |
| | 4 田淵の著書『黄色いテント』の読み聞かせを聞く. | <ul style="list-style-type: none"> 高山蝶ってすごい敏感なんだ. 厳しい環境の中を生き抜いているんだ. 黒木の密林は怖いんだ. 何だかもののけ姫みたいだ. 深山のテントは神秘的だけど, 怖さがあるな. | <ul style="list-style-type: none"> 高山蝶はギリギリのところで生き抜いていること. 幼虫で2回越冬する蝶もいることを知らせる. 声の強弱, 話す速さを工夫しながら田淵の心境が伝わるように読む. | • 『黄色いテント』 |
| | 5 田淵行男と自分を比べる. | <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>【中心発問】</p> <p>あなたと田淵行男との相違点は何ですか?</p> <p>また, あなたと田淵行男との共通点は何ですか?</p> </div> | | |
| | 6 グループで考え議論し, 全体でシェアする. | <ul style="list-style-type: none"> 共通点なんかないぞ. 田淵の自然観はすごい. マネはできないな. 自分は, 田淵のようにこんなに自然に対して敬意はもっていない. | <ul style="list-style-type: none"> 相違点と共通点をLMSに打ち込みさせる. 5人グループで話し合わせ, 全体でシェアさせる. | |
| | 7 授業者の話を聞く. | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちにも田淵に共通する感動する心や畏敬の念があるんだ. 田淵が特別な人ではないんだ. こんな自分を大切にしたいな. | <ul style="list-style-type: none"> 田淵との相違点を取り上げながら, 田淵が感じた自然に対する感動, 畏敬の念に気づけたことは, 田淵と共通する感動や畏敬の念を自分達も抱けることを伝える. 感動, 畏敬の念は, 実はみんなも抱けることを押さえる. | |
| 終わり 5分 | 8 本時の感想及び授業アンケートを記述する. | <ul style="list-style-type: none"> 田淵行男を知れてよかったな. 田淵行男が著した『黄色いテント』読んでみたいな. | <ul style="list-style-type: none"> 感想と授業アンケートをLMSに書かせる. 田淵行男の業績である「蝶の細密画」と「山岳写真」を鑑賞したり, 著書『黄色いテント』の読み聞かせを聞いたりすることを通して, 田淵行男が抱いた自然に対する感動, 畏敬の念を感得すると共に, 自分自身の中にも田淵行男と共通する感動, 畏敬の念が抱けることに気づき, そのことを大切にしていることとする心情を高めることができたか, 感想文及び授業アンケートから評価する. | |

注

- 1 公益財団法人安曇野文化財団 田淵行男記念館
ホームページ「収蔵品データベース」
<http://azumino-bunka.com/facility/tabuchi-museum/> (2021-9-11) に詳しい。
- 2 石川・百瀬・下崎は、「教職実践演習」及び「教育方法論」においても、この「模範授業」の導入を試みた。石川勝彦・百瀬光一・下崎聖(2022)。「新設科目(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法)に関する授業設計試案」中京学院大学紀要, 1(1), 105-113, 百瀬光一・石川勝彦・下崎聖(2022)。「教育方法論」における「個別最適な学び・協働的な学び」の実現に関する導入的指導の試み。教職課程教育研究, 1(2), 33-44, に詳しい。
- 3 安曇野市ホームページ「田淵行男 | 安曇野ゆかりの先人たち」<https://www.city.azumino.nagano.jp/site/yukari/2286.html> (2021-9-11) を拡大投影機で提示することにした。
- 4 ホームページを作成した安曇野市教育委員会教育部文化課博物館係より、録画・転写等を行わないことを条件にホームページの授業での活用の許可を得た(2021-9-30)。
- 5 公益財団法人安曇野文化財団 田淵行男記念館
ホームページ「収蔵品データベース」
<http://azumino-bunka.com/facility/tabuchi-museum/> (2021-9-11) を拡大投影機で提示することにした。
- 6 ホームページを作成した田淵行男記念館より、録画・転写等を行わないことを条件にホームページの授業での活用の許可を得た(2021-10-2)。
- 7 山と溪谷社より、授業(読み聞かせ)の録画・録音等をしないことを条件に大教室でマイクを使って読み聞かせを行うことの許可を得た(2021-10-17)。

【文献】

- 藤井基貴・中村美智太郎(2014)。「道徳教育における内容項目「畏敬の念」に関する基礎的研究」教科開発学論集, 2, 173-183。
- 藤田善正・俵谷好一(2019)。「感動、畏敬の念を扱った道徳教材の指導のあり方」大阪総合保育大学紀要, (14), 1-11。

- 伊藤潔志(2018)。「道徳教育と畏敬の念」桃山学院大学キリスト教論集, (53), 81-90。
- 小池孝範(2016)。「道徳教育における「畏敬の念」の位置づけと意義についてー「学習指導要領」における内容構成の視点を手がかりにー」日本仏教教育研究, 24, 72-73。
- 松井玲子・元根朋美(2009)。「模擬授業の導入による「道徳の指導法」の改善研究ー概念理解に関する調査研究に基づいてー」関西教育学会年報, (33), 135-139。
- 光田尚美(2016)。「道徳教育における「畏敬の念」」近畿大学教育論叢, 27 (2), 19-32。
- 光田尚美(2021)。「道徳教育の存在論的地平」近畿大学教育論叢, 33 (1), 1-18。
- 三宅晶子(2016)。「教科化」に向かう「道徳」その超越的価値観の系譜を検証するー「宗教的情操」から「畏敬の念」へー」日本教育法学会年報, (45), 96-106。
- 文部科学省(2018a)。「中学校学習指導要領(平成29年度告示)」東山書房。
- 文部科学省(2018b)。「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」教育出版。
- 村上悦子(2020)。「学生の指導技術獲得を目指した「道徳教育指導法」の取り組みー模擬授業と協議の積み重ねを通してー」植草学園大学研究紀要, 12(0), 107-116。
- 永井俊道(2019)。「道徳教育における「畏敬の念」と「宗教的情操」についてー「特別の教科 道徳」の「学習指導要領」と教科書よりー」佛教経済研究, 48, 155-177。
- 長野県立歴史館(2018)。「平成30年度冬季展「自然を見つめた 田淵行男」図録」長野県立歴史館。
- 大前暁政(2015)。「教育方法と授業技術を意識化させ、習得させるための「教育方法論」の実践」教師学研究, 16(0), 1-11。
- 大宮有博(2014)。「生命に対する畏敬」の念を育てる公立学校の道徳教育と宗教学校の宗教教育」名古屋学院大学論集 社会科学篇, 50(4), 62-63。
- 笹尾幸夫(2020)。「教職科目「道徳教育指導論」の授業改善の試みー「学生による模擬授業」実施の工夫と課題ー」南山大学 教職センター紀要, 6, 22-30。
- 清水克博(2020)。「教職課程「道徳教育の理論と方法」における授業改善の実証的研究ー授業ビデオの継続的視聴と模擬指導案検討会の実践を通じてー」愛知文教大学教育研究, (11), 9-20。

須藤文・安永悟（2018）. LTD を活用した『道德指導法』
の実践ー「考え，議論する道德」を目指してー. 久留
米大学教職課程年報，2， 59-69.

庄子豊（2012）. 「道德の時間」の指導のあり方ー授業
ビデオ「語り合い」の視聴を通してー. 神奈川大学
心理・教育研究論集，31， 157-159.

田淵行男（1952）. わが山旅：田淵行男山岳写真集. 誠文
堂新光社.

田淵行男（1995）. 山は魔術師 私の山岳写真. ブルー
ガイドセンター.

田淵行男（2018）. 黄色いテント. 山と溪谷社.

富岡栄（2020）. 道德科における「畏敬の念」の指導
のあり方に関する研究. 道德教育学研究，1， 73-84.

上原昭三（2017）. 道德の授業において対話を促す教
師の発問技能ー教員養成段階における指導上の課題
ー. 教育総合研究叢書，10， 41-56.

内海崎貴子（2014）. 教職課程科目「道德教育の指導法」
における授業実践ー学習指導案の作成と模擬授業を
中心としてー. 教職研究，26， 131-145.

山田真由美・杉本泰範・山田浩之他（2020）. 中学校
道德科における「感動，畏敬の念」の授業ー「人間
の力を超えたもの」をどのように扱うかー. 北海道
教育大学紀要 教育科学編，71（1）， 61-75.

矢田貞行（2021）. 「特別の教科 道德」道德教科化へ
の対応（3）ゼミにおける模擬授業（中学校道德科）
の取組みを中心にして. 東海学園大学教育研究紀要.
スポーツ健康科学部，（6）， 94-106.